

### 3年間を見通した学年経営について

西郷村立西郷第一中学校  
教諭 宮川 智典

#### 1 はじめに

昨今の社会情勢の中で、学校教育が果たすべき役割は非常に大きくなってきていると感じる。特に義務教育においては将来、民主的な国家を担う知・徳・体バランスのとれた生徒の人間形成に努めなければならない。

我々教職員が教育現場で感じている生徒の学力定着・向上と SNS を含めた情報モラル教育等諸問題の解決に向けて、取り組むべき課題は多岐に渡る。義務教育修了に向けて3年間の見通しをもち、計画的かつ段階的・組織的に指導を行う必要性を強く感じる。

まず、生徒の実態を把握するために、令和5年7月と12月に全学年を対象に「学校生活アンケート」を実施した。結果については以下の通りであった。

令和5年度【全学年】学校生活に関するアンケート・調査集計（一部抜粋）

質問内容	1学期	2学期
学校は過ごしやすいですか。	50.5%	45.2% ↓
学級はまとめ、学活や行事に積極的に参加する人が多いですか。	38.4%	42.8% ↑
約束や決まりを守って生活していますか。	60.1%	56.6% ↓
誰かが困っている時、手助けをしていますか。	53.1%	48.3% ↓
健康には気をつけて規則正しい生活を送っていますか。	51.0%	51.7% ↑
あなたの家庭は過ごしやすいですか。	70.5%	74.5% ↑
先生は、あなたのことをよく分かってくれていると思いますか。	47.8%	43.1% ↓

2学期のアンケート結果から、課題として①過ごしやすい学校作りへの取り組み、②約束や決まりを守ることの大切さの指導、③心を育てる教育、④教師と生徒の信頼関係の構築が挙げられた。

これらを踏まえ、教師が一丸となり改善のための方策を考え取り組むことが必要である。まずは具体的な数値目標を立て、目標達成のために意見を出し合い、「共通理解を図る→実行に移す→結果を考察・評価する→改善すべき点があれば改善する」といったサイクルで実践した。さらに、良い面はほめ、さらに伸ばし、充実した学校生活を送れるよう教師側の支援の必要性も大切である。これらの取組による今後の変容に期待したい。

西郷村教育大綱「自立と共生」を念頭に

本校の教育目標 「生きる力を持つ生徒の育成」

目指す生徒の姿

- ①主体的に学ぶ生徒・・・自己実現に向けて、自ら進んで学ぶ生徒
- ②心豊かな生徒・・・自分を大切にし、他の人を思いやる生徒
- ③健康でよく働く生徒・・・体力の向上と健康の維持・増進に努力する生徒

学年目標

中堅学年として自覚をもち、責任感と協調性をもって諸活動に積極的に参加することができる生徒を育てる。

- (1) 中学生としての自覚をもち、責任感と協調性をもって諸活動に積極的に参加することができる生徒を育てる。
- (2) 学習や生活の基本的態度、習慣の形成に努める。
- (3) 個性の深長を図ると共に、思いやりと感謝の心をもつ望ましい集団の形成に努める。

学級目標

- 学力向上のために、一人一人が進んで学習に取り組むクラス
- 一人一人の個性を大切にし、思いやりがあるクラス
- どんな時でも笑顔を保ち、元気に過ごすクラス

生徒の気構え

何ごと

- ・やる気をおこし
- ・本気になって
- ・根気よく

目指す生徒の姿を意識し、全教師が一体となり共通理解のもと、個に応じた支援にあたる。そこで、2学年主任として実践している主な取組を紹介したい。

## 2 実践の内容及び方法等

### (1) 学年集会および学年レクリエーションの定期的な実施

- ① 生徒に進行や司会などの役割を与え、やるべきことに責任を持って主体的に取り組むことができる生徒の育成に努める。
- ② 互いが協力し合い、協調性・団結力・思いやりの心を育む生徒の育成に努める。
- ③ 学年全体の規範意識と所属感、連帯感などの醸成に努める。



【定期的に行われる学年集会】



【学年レクリエーション】

### (2) 生徒の情報共有を図るための学年教師による定期的な打合せの実施

- ① 生活面や学習面における生徒個々の情報の共有を図り、重点事項や今後の方向性をまとめる。
- ② 解決すべき課題や改善点をしっかり把握し、足並みをそろえて指導・支援にあたる。
- ③ 養護教諭・スクールカウンセラーとの連携を密にし、適切な対応で生徒との信頼関係を構築する。

### (3) 朝の登校指導や休み時間等の巡回

- ① 全生徒に対して積極的にあいさつを行うとともに絶えず笑顔で接し、温かく迎え入れる。また、生徒たちの健康状態なども把握する。
- ② 休み時間等巡回することで、問題行動の早期発見のみならず、何気ない会話や声かけによって安心安全な居場所づくりに努める。

### (4) 定期的な学年だよりの発行

- ① 学校生活の様子や次週の行事予定等を保護者に知らせることで家庭との連携に努める。
- ② タイムリーな話題や生徒の活躍の様子を写真や記事にすることで、生徒の自己肯定感の高揚及び賞賛の機会とする。

## 3 実践の成果

役割を与えられた生徒にはそれぞれに自覚と責任感が生まれ、リーダー育成につながっている。また、学年レクリエーションにおいては、同じクラスでも比較的関わりの少ない生徒同士が話し合ったり、力を合わせたりする姿が見られるなど、仲間としての意識の芽生えや心の育成につながり、まとまりのある学年・学級に成長している。

何らかの事案が発生しても教師間での情報共有や解決に向けての動きが一体化できていることで、素早い対応やスムーズな学年経営が行われている。そのため、大きな問題やトラブルに陥ることなく学年・学級運営がなされている。

教師が身近にすることで生徒に安心感を与えることができ、落ち着いた学校生活を送ることができる。

## 4 課題及び今後の取組の方向性

意欲的に学校生活を送る生徒が多い中、やりがいや目標を見いだせずに悩みや不安を抱えている生徒も見られる。個性を尊重し、個性の伸長を図るための方法について職員間で試行錯誤を重ねている。

進路を見据え、一人一人の夢や目標の実現のために、集団生活のあり方や心構えについて道徳や学活の時間を有効に活用して心身の成長につなげ、それぞれの希望に近づけていく。

PDCA サイクルを念頭に置いて実行することが大切であることから、各プロセスを大切に、興味・関心を持たせ、諸活動に意欲的に取り組ませる。

卒業する時、「この学校・学年・学級でよかった」と心から思えるよう、個人の自発的な意見や活動が尊重できる雰囲気をつくる。そのためにも適宜アドバイスを送りながら生徒主体の活動ができる組織にしていけるよう、学年主任としてリーダーシップを発揮し、今後もしっかり取り組んでいきたい。

